

Ⅲ ユビナガチビワムシの培養試験

ユビナガチビワムシ *Colurella adriatica* EHRENBERG (背甲長 $70.4 \sim 99.5 \mu\text{m}$, 高さ $41.3 \sim 63.1 \mu\text{m}$) については、昭和 61 年度に当支場内の水槽から採取、分離し、餌料別及び塩分濃度別培養試験を 4 例実施した。

その結果、塩分濃度別培養試験では低塩分区 (50% 海水区) ほど良く増殖し、餌料別培養試験では通称海産クロレラ+パン酵母区が良好であった。しかし、シオミズツボワムシ (S型) の混入があったため、今年度は恒温培養室内で単離培養したユビナガチビワムシを用いて、以下に述べる 3 例を実施した。

なお、ユビナガチビワムシは卵を携帯せずに、培養容器の底にあるゴミなどに産み付けることがわかった。(写真 5, 6) 卵の大きさは写真 6 の個体で長径 $64.6 \mu\text{m}$, 短径 $38.6 \mu\text{m}$ であった。

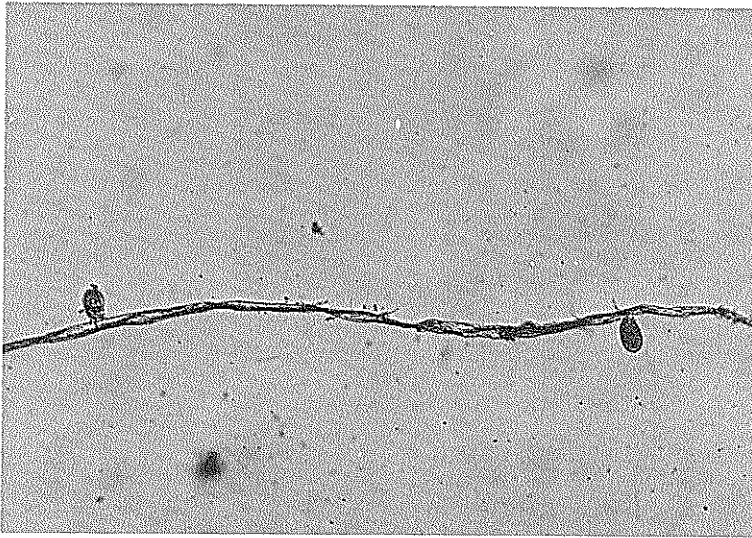


写真 5 ユビナガチビワムシの卵 (×80倍)

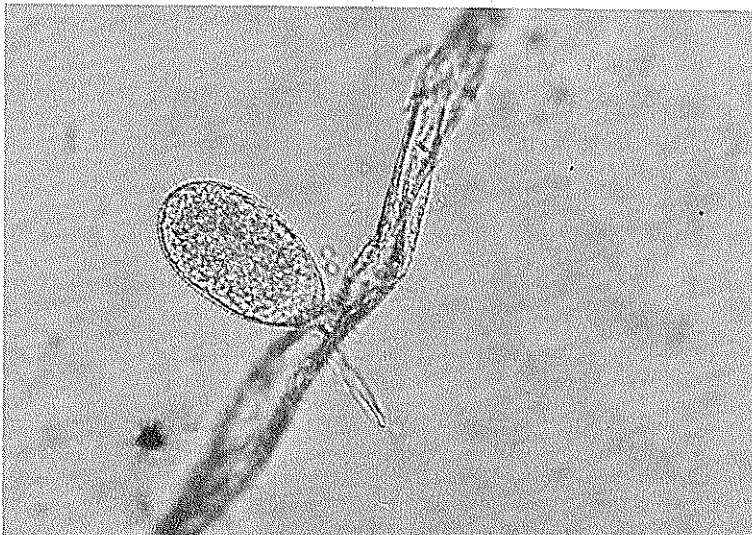


写真 6 ユビナガチビワムシの卵 (×400倍)